

お申し込みの際には…

- FAXでお申し込みの場合は、この面を送信してください。
- 受付完了後、受講受付確認書をお送りいたします。
- 不明瞭な点がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

FAX / 088-626-0833

TEL / 088-626-0408

(切り取り)

第21回 藍染通信文化講座 受講申込書

お名前	ふりがな	郵便番号
ご住所		
連絡先	☎ () () () () () () () () () ()	FAX () () () () () () () () () ()
<p>※個人情報については、当講座事業以外には使用いたしません。《お申し込みありがとうございます。》</p> <p>アンケートにご協力ください。</p> <p>通信講座は何で(どこで)知りましたか？</p> <p>今までに染めの経験はありますか？ <input type="checkbox"/> 初めて <input type="checkbox"/> 何度か経験がある <input type="checkbox"/> 趣味でしている <input type="checkbox"/> 染めの仕事をしている</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p>		

募集要項

募集案内	令和3年1月15日金から先着順に受付
募集人数	50人(定員になり次第締め切らせていただきます)
講座期間	令和3年3月~令和3年12月(10ヶ月)
講座回数	毎月1回で全10回
受講料	37,000円 (ガイドブック・テキスト・教材を含みます)

最初にお送りするものは次の通りです。(3月中旬発送)

- ガイドブック(アキヤマセイコ著「阿波の草染涙色」)
- テキスト(A4判)
- 第1回目の教材(藍の種など)
- 質問用紙(10枚)
- 資料等を綴じるファイルなど

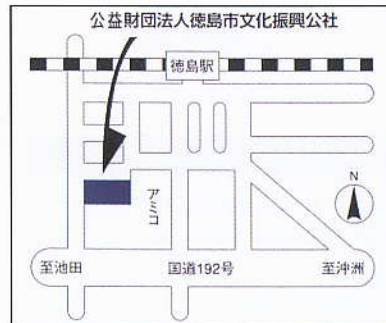
必要事項を記入のうえ、受講申込書をFAXしていただくか、電話、メールでお申込みください。
受付ができ次第、受講受付確認書をお送りいたします。

受講料の支払方法 第1回目のテキスト等をお受け取りになるときに、代金引換でお支払いください。

※ご不明な点は下記までお問い合わせください。
[受付時間 / AM10:00 ~ PM 6:00]

◆休館日：毎月第1火曜日◆

ご案内



公益財団法人
徳島市文化振興公社
〒770-0834
徳島市元町1丁目24番地
TEL (088) 626-0408
FAX (088) 626-0833
tuushin@cf.civic-center.jp

ホームページ <https://www.civic-center.jp/>

2021

藍

染

第21回
通信文化講座

募集案内



阿波の伝統工芸「藍染め」を
自宅で体験してみましょ。

はじめに

2000年より始まった藍染通信文化講座も、はや21回目となりました。これも多くの皆様が熱心に受講してくださいましたおかげと、心より感謝致しております。

この藍染通信文化講座ですが、当公社が徳島の特長ある文化をアピールする方法はないかと思案していたところ、公社主催の藍染講座で講師をしていたアキヤマセイコ先生が発起人となり、阿波の藍染を、教室に来られなくても体験でき、未経験の方でも染められる事を目的として始めました。

アキヤマ先生は、当講座のテキスト、および教科書となる「阿波の草染涙色」の著者であり、藍染通信文化講座の第1回から第20回まで、受講生と共に美しい色を追いかけてきました。

生葉の煮出しにより赤色が染まることを発見し、その後、自然発酵で赤や紫、灰、茶、緑色などを媒染剤なしで染められることを発見されました。また「紫紺のしずく」という、少量でも濃い色が染められるすくもの作り方も発明されました。これらの方法はテキストに記載されています。ご高齢のため第21回目からは一線を退き、監修という立場になりますが、ご自宅で研究を続けるなど、なお積極的に活動を行っております。皆様にはスクーリングなどでお目にかかる機会があるかと思います。

今回からはアキヤマ先生の意志を継いで、藍染通信文化講座制作委員会【チーム SHIBUKOYA】を発足させ、皆様の学びをお手伝いさせていただくようにしました。今年も皆様により深く藍を楽しんでいただけるよう、チーム一丸となって努力して参ります。

監修 アキヤマセイコ (自然染色研究家)

1934年生まれ、愛媛県出身。30代迄はニットのデザイナー。40代より植物採集をきっかけに草木染めを始め、その後藍色に魅せられ藍の研究に取り組む。50代で藍生葉の染色に独自の道を開く。徳島県内の公共施設等で染色指導の傍ら、自然塾「SHIBUKOYA」を開設。第1回～第20回藍染通信文化講座講師。著書に「阿波の草染涙色」



協力 新居 修氏 (新居製藍所)

明治初期より続く藍師の6代目。2017年度「現代の名工」に選ばれる。藍種子やスクーリング会場の提供など本講座に協力。30年ほど前から藍師や藍作家を目指す県内外の若者らを研修生として受け入れ、技術を伝えている。



カリキュラム (全10回)

3月

藍の種を植える

藍草からいろいろな色を染めるため、種を送りますので植えてください。作り方は詳しくテキストで説明していきます。実習に必要な藍を収穫してください。3m四方以上の量があります。



4月

布を絞る

絞りの技法5種類を解説します。藍染のために用意しましょう。



5月

リュウキュウ藍を育てて染める

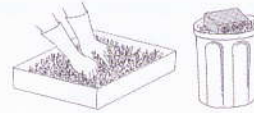
沖縄やインド、中国等で育っている藍で、多年草です。この藍は寒さに弱いので、ハウスや室内で冬を過ごし、春に外に出して差し木で増やし、さまざまな方法で染めます。



6月

沈澱藍の作り方と染め方

- ①リュウキュウ藍やタデ藍を使って藍を沈澱させる方法です。図解と実習を行います。
- ②それ以外に新しく塩を使って沈澱させる方法を図解実習します。



7月

藍生葉で青を染める

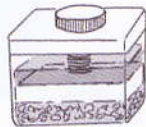
藍生葉をミキサー方法、塩揉み方法等で、絹と木綿を染める実習をします。データ用の見本布、実習用の生地をお送りします。



8月

生葉で七色を染める

- ①ウールの原毛や絹糸を湯漬けにして染める方法です。
- ②藍の生葉を発酵させて水に浸け、その液を使って染めます。



9月

すくもを作る

藍の乾燥葉を使って、少量のすくもを作ります。



10月

すくもを藍建てする

自作のすくもを使って藍建てし、染めます。



11月

沈澱藍を使って描く

沈澱藍を建て、文字や絵を描きます。



12月

藍の色止めの一つとして柿渋染

藍のさまざまな方法で7つの色を染めました。型染めの技法で、インテリアを作ります。



講座のすすめ方は...

3月から12月まで、毎月1回テキストや材料などをお送りします。テキストなどでご不明な点がございましたら、専用の用紙にご記入いただき、メール、FAX、郵便などで質問を受付けます。また、今回から動画による内容解説を予定しています。なお、希望者のみの参加になりますが、秋頃にスクーリングを開催します。現地徳島にお越しいただき、新居製藍所の協力の下、すくも作りの見学や、様々な実習を行います。

受講者の声

岩田 尚子 様 (東京都在住)

近くの公民館で見つけた藍染講座のパンフレットが始まりでした。徳島から届く月々のテキストにわくわくした1年間。藍の種を蒔き育てる楽しみ、育てた藍から驚くほど美しい色が出た時の喜び、受講できたことを幸せに感じます。どんな質問にもご丁寧に返信して下さりありがたかったです。7色の染め見本が心に光っています。

藤沼 敬子 様 (栃木県在住)

独学での藍染めに限界を感じていた時、染料店でこの講座と出会いました。先生から紹介いただいた同じ県のお先輩に、沈澱藍染めを体験させていただき、藍の深さを知りました。教材から先生の情熱が伝わり、栽培方法や染色方法を学び、自分の藍液を作ることができました。先生や先人達の発見に感動し、講座を通して人生が豊かになった事に心から感謝致しております。

後藤 由貴子 様 (大分県在住)

種が届くの心待ちにスタートし、病害虫や天候被害もほとんどなく、たくさん葉を収穫することができました。途中、テキストどおりにいかない時はアキヤマ先生にご相談をし、丁寧に指導いただいたおかげで、素晴らしい色に出会うことができました。同じ植物から緑、紫、青と何種類もの色が生まれる藍染めの世界に魅了されました。

スクーリング風景

